

ポリオの根絶を目指す予防接種は、子どもの命を守る定期予防接種の中でも重要な一里塚となっている。根絶まであと一歩というところまで迫りながら、2004年度にはアフリカ西部と中央部で再び流行が起き、世界の努力が一時後退した。この流行を懸命に抑えようと努力した機関のひとつがユニセフである。

予防接種 プラス

ポリオは特に有効な治療法がない、感染力の強い病気、主に5歳未満の子どもが感染する。ポリオ・ワクチンを何滴か投与すれば生涯にわたって感染せずにすむのだが、ワクチン投与を受けていないアフリカの無数の子どもたちは、2003年から2004年にかけて、今にも燃え広がらんとする干草の山のような危険な状態にあった。結果として、野生株のポリオはナイジェリアからアフリカ西部・中央部を越えてスーダンへと広がり、ポリオが根絶されたはずの12カ国の子どもたちに襲いかかった。2004年末までに、この地域は世界で一番多くのポリオ発生国を抱える地域となってしまったのだ。だが、ポリオの流行を食い止めるために——23カ国の子どもたちひとりひとりにワクチンの経口投与を行うために——どれほど多くの努力が注ぎ込まれたかを見れば、国境を超え、言語の壁を超え、文化の違いをも乗り越えて、人々がいかに子どものために力を合わせることができるかということを知ることができる。





2003年と2004年、アフリカ西部・中央部で、予防接種を受けずに、ポリオ感染の危機に晒された子どもたちが増えたことにはいくつかの要因がある。多くの国々、あるいはひとつの国の中でも一部の地域で定期予防接種率が低かったこと、2003年春に、財政難のために全国ポリオ予防接種デーがアフリカ西部全体で延期されたこと、ナイジェリア北部で経口ポリオ・ワクチンの安全性について根拠のない風評が広がり、2003年7月から2004年7月までの期間、予防接種が中断されたことなどがその要因である。

ナイジェリアでポリオが増加し、近隣の他の地域でも再発しつつあることが明らかになると、世界保健機関（WHO）、ユニセフ、ロータリー・インターナショナル、米国疾病管理・予防センターが主導する世界ポリオ撲滅計画は迅速に対応し、子どもたちを無用な脅威に陥れ、ポリオ根絶の目標達成を脅かす流行を抑え込む努力をした。パートナーたちは、あらゆるレベルで、主要な国と地域の人々の免疫力を高めるための努力をし、5歳未満の子どもが追加の予防接種を受けられるようにし、ナイジェリアや近隣地域のほかの国々でも、予防接種サービスに対する信頼を回復するために力を注いだ。

大切なアドボカシー活動

アフリカ西部・中央部のすべての国の首相や大統領、大臣、知事に対するアドボカシー（政策提言）活動が強化され、ポリオ流行の中心地であるナイジェリアには特に力が入れた。ナイジェリアでは、ポリオ・ワクチンの安全性に対する不信感を払拭するためにありとあらゆる努力がなされ、ナイジェリア国内で人々を説得するのに必要な影響力を持つ人々や方法がすべてのレベルで動員され、話し合いが開かれた。

6月には、WHOとユニセフは、地域のすべての保健大臣に連名で手紙を送付し、ポリオの流行を食い止めるためリーダーシップを発揮するよう要請した。ユニセフはセネガルで行われたイスラム会議機構の代表者会議、セネガルのアブドゥライ・ワッド大統領、地域に影響力を持つ宗教指導者たちに状況を報告した。さらに、西アフリカ諸国経済共同体とアフリカ連合に対してもアドボカシー活動を行った。

パートナー機関は、ポリオの流行を食い止めるため、宗教指導者を含むナイジェリアとニジェールの地元リーダーを捜し出すとともに、宗教指導者と伝統的部族のリーダーが顔を合わせる多国間会議（カメルーン、チャド、ニジェール、ナイジェリア）も計画した。その努力は、「予防接種の信頼性を築き、宗教指導者・伝統的部族の指導者、およびメディアと子どもの生存を考えるための汎アフリカ・フォーラム」という形になって実を結んだ。これは2004年10月18日から20日まで、セネガルのダカールで開催されたものである。

現場の声から…

ガド・サボ

ガド・サボはニジェールのマヤヒ地区の伝統部族の酋長である。

「マヤヒには202の村があり、住民は全部で17万2,000人以上。これらすべての村人たちの健康に、私が責任を負っているのだ」

「昔は天然痘という病気があったが、予防接種の効力を信じない親がたくさんいた。だが見てほしい。ご覧のように、私の腕には未だに天然痘の予防接種痕が残っている。両

親が予防接種を受けさせてくれたおかげで、私は天然痘にかからずに済んだ。そして今、世界中から天然痘が根絶されたのだ！」

「ポリオ・ワクチンに疑いを持つ人がいると、私はいつもこの話をする。自分自身で話をするようにしているが、伝道役の『騎士』も30人以上いる。ひとり1頭の馬を与えて、ポリオについての知識を教える。ポリオにかかるとどんな症状が出るのか、どうなってしまうのか、そしてそれを防ぐための安全なワクチンについて教える。そして、

マヤヒ中のすべての村々に送り出すのだ」

「騎士たちは、ポリオの予防接種についてのメッセージを5日間で、村の長や一家の長に伝え、それを彼らの家族に伝えてもらう。騎士たちは、村にいる広報役の人たちにもこの情報を伝えて、村人が集まる市場で情報を広めてもらう。ラジオでもポリオについて伝える。村の誰かがワクチンの安全性を疑っていると聞けば、私は自分から乗り込んで行って説得をする。そうすると、みんな信じてくれる。なぜなら伝統部族の酋



幅広い支援を糧に、 技術的支援を提供

予防接種キャンペーンを成功に導くためには、子どもを持つ親に十分な情報を提供する必要がある。ナイジェリアとこの地域のほかの場所で、ターゲットを絞り込んだ広報計画が実行された。計画の多くには、主に今日もポリオが流行している3カ国——インド、アフガニスタン、パキスタン——の経験から得られた教訓が活かされていた。これらの国々では、社会動員計画の対象を綿密に絞りこみ、追加予防接種活動のモニタリングに力を入れた結果、2004年のポリオ発生件数が45%も減少したのだ。アフリカ西部・中央部においても、同様の戦略が2004年度を通じて拡大実施された。

国際的なテレビ局やラジオ局のほか、国営や民間、コミュニティのラジオ局、国連平和維持ミッションが運営するラジオ局を通じて、英語やフランス語、そして現地住民の言葉によるラジオやテレビスポットがアフリカ全土に放送された。ユニセフの親善大使たちもテレビやラジオの公共サービス広告の撮影や収録に協力するとともに、インタビューにも応じた。

ポリオ流行の影響を受けた国々はまた、ワクチンやコールドチェーン、スタッフや資金といった面で何が必要かを見極めることができるよう、技術的な支援も受けた。ユニセフはポリオ経口ワクチンの供給と配布を担当。2004年度は合計21億回分のワクチンを調達したが、そのうちの5億1,100万回分がアフリカ西部・中央部で使用された。

長の影響力は医者よりも大きいからだ。ニジェールのポリオ根絶のためには、酋長はなくてはならない存在なのだ」

「マヤヒでは2002年以降、ポリオの新しい症例はない。それは、情報が十分に行きわたっているからだ。子どもたちがなぜポリオの予防接種を受けなければならないか、私たちが説明すれば村人はそれを信頼してくれる。この間、たった2日だったが、ニジェールとナイジェリアの伝統部族の酋長80人以上が集まって（2004年4月17～18

日）、ポリオについて話し合った。経験を分かち合えたのはとても良かった。互いに学ぶことも多かった」■

ナシル・スーマナ

ナシル・スーマナはトラックの運転手で、ベニンのゾンゴに住んでいる。15人の父親でもある。イマーム（イスラムの宗教指導者）が、ポリオの予防接種についての考え方をどのように変えてくれたか、語ってくれた。

「考え方ががらりと変わった。生きていくに

は常識がないといけない。彼（イマーム）が俺を説得したんだ。指導者の声、神の声をどうして無視することができようか？ 彼が、子どもに予防接種を受けさせなさいと言えばそうする。疑うことはしない。そういうものだ」

「前のように拒むことはもうない。毎年、予防接種をされても異存がないさ。『うちの子はあなたのもの…』すべてを任す。近所で予防接種を拒む親がいるとしたら、私に知らせてほしい。説得してみせるさ」■

村から村へ、 扉から扉へ

すべてのパートナーのたゆみない努力により、2004年7月に、ナイジェリア北部で予防接種が再開した。世界最大規模の一斉予防接種キャンペーンにより、10月の第1回予防接種では、23カ国の5歳未満の子ども8,000万人が予防接種を受けることができた。11月に行われた第2回予防接種でも8,000万人が予防接種を受け、2005年にもさらに追加で予防接種が実施される予定である。キャンペーンの推進役となったのは、数千人の予防接種員、宗教指導者、ロータリーのボランティア、そのほかの人々である。馬に乗って、歩いて、あるいは船や自転車に乗って、彼らは村から村へ、そして扉から扉へと向かった。ひとりの子どもも残さないように、探し出しては予防接種を実施した。彼らひとりひとりが踏みしめた何百万歩もの歩みが、子どもたちをポリオから守り、この病がもたらす痕跡を消してくれた。いつの日か、ポリオは過ぎ去りし日の出来事となることであろう。

子どもが生き長らえ、健康に生きていけるよう支援するユニセフにとって、ワクチンを提供し、国の予防接種キャンペーンに力を貸すことは、必須の事柄である。子どもの生存を支援するそのほかの事業（予防接種プラスの「プラス」の部分）も、往々にして予防接種キャンペーンと結びついている。2004年度のこの分野における活動と成果を次のページに挙げた。

支援の一例

2004年度に、ユニセフは以下の調達を行い、提供した：

- ・ 28億回分のワクチン。価格にして3億7,400万米ドル相当。
- ・ 1,500万米ドル相当のコールド・チェーン器材。
- ・ 21億回分のポリオワクチン。価格にして2億300万米ドル相当。

シーク・ダヒル

シーク・ダヒルはナイジェリアのパウチ州のイスラム教指導者である。

「今週末に行われた、ニジェールにおけるポリオ根絶のための伝統部族の酋長と宗教指導者の会議に参加できてとても良かったと思っています」

「ニジェールとナイジェリアにいる私たちのような指導者が、ポリオについて話し合うために集うのは初めてのことでした。会議は大成功だったと思います。ポリオの危険性についての共通認識ができましたし、この地域でポリオを根絶するために

私たちがどれほど重要な役割を担っているのかがわかりましたから。ナイジェリアとニジェールでのポリオ予防接種キャンペーンについて人々に知らせ、動員することが私たちの大きな役割です」

「私たちの努力で、ポリオの脅威に関して注意を喚起することができますし、人々の間で理解を促すことができます。私たちは、ポリオ根絶のための闘いで重要な役割を担っています。なぜなら、私たちは常日頃から人々と接しているからです。彼らが都市部に住んでいようが、村に住んでいようが、そばにいるのは私たちなのです。

1対1で喋ったり、グループで話し合ったり、ラジオ、テレビ、新聞でもインタビューに応じています」

「本日、この会議を取材するために、たくさんの方のジャーナリストの方がいらしています。昔は、ワクチンは問題とは考えられていませんでした。でも最近では、ポリオ・ワクチンについて疑念を抱く人もいます。だからこそ私たちは、こうして地域のメディアの方たちを集めて、ポリオのワクチンについての真実でない風評を広めないようにお願いすることにしたのです。なぜなら、それは人々を傷つけるものでしかないからです」



ユニセフは、政府やパートナー機関と共に、定期予防接種サービスを提供し、子どもたちの命を救うそのほかの支援事業（「プラス」の部分）——例えば、ビタミンや微量栄養素の補給、回虫駆除、マラリアを防ぐための殺虫剤処理が施された蚊帳の供給など——を実施している。2004年度の代表的な例を以下に挙げる：

アフガニスタン：破傷風トキソイドを300万人の女性に接種。

アルメニア：予防接種の基礎知識について1,300人の予防接種員に研修を実施。

ベリーズ：米州における予防接種週間の一環として、予防接種に関する啓蒙資料を製作・配布した。

ドミニカ共和国：米州における国境を超えた予防接種週間の一環として、ハイチ当局と一緒に、1,100万人の子どもに予防接種を実施。

エジプト：2004年9月の全国予防接種デーで予防接種を受けなかった子どもについての調査を実施。目的は、ポリオ予防接種キャンペーンを実施しても、少数ながらも無視できない割合の子どもたちが予防接種を受けていない事実を問題としてとりあげ、これに対処することであった。

エチオピア：熱帯熱マラリア原虫を原因とするマラリアの一次治療法として、アルテシニンを含む混合治療法であるアルテメテル（アートメーター）・ルメファントリン合剤（Coartem®）を新たに採用。

ガンビア：拡大予防接種プログラムのもとで、冷蔵庫2万7,000リットル、冷凍庫1万5,000リットル相当を備えた保冷室を発注。

グルジア：パンキン渓谷の12カ月～15歳の子ども2,800人以上に、はしかの予防接種を実施し、ビタミンAの補給剤を提供。これには、チェチェンからの難民の子ども715人も含まれている。

ラオス：ビタミンA補給戦略を見直し、ビタミンA補給と駆虫剤（虫下し）の提供を組み合わせる計画を新たに策定した。

リベリア：殺虫剤処理が施された蚊帳5万4,000張以上を提供した。

マダガスカル：「すべての地区に予防接種を」戦略の一環として、はしかの予防接種を900万人近い子どもに実施。また、300万人以上の子どもたちにビタミンA補給剤と駆虫剤を提供した。

ネパール：人権ネットワークを使い、政治団体・メディア・市民社会を動員、人権としてのはしかの予防接種を推進。国のはしか根絶キャンペーンの第1段階として、75地区のうち35地区に暮らす530万人以上の子どもたちに予防接種を実施。

パキスタン：予防接種と保健ケア・サービスを提供できるよう、女性保健員に研修を実施した。

ペルー：少数民族であるカンドシ族とシャプラ族にB型肝炎の予防接種を実施。民族絶滅の危機をもたらす流行から人々を守った。

セルビア・モンテネグロ：ローマ人と避難民の子どもたちに予防接種を実施。キャンペーンの間に、出生登録されていない子どもたちの出生登録を行った。

タジキスタン：300万人の子どもと若者を対象にした大規模なはしか予防キャンペーンを展開。情報が届きにくい場所にはしかに関する情報を届けるために、市民社会組織を動員した。

東ティモール：予防接種とビタミンAに関する資料を製作し、人々の注意を喚起し、啓蒙を行った。